いわて高等教育コンソーシアム
The Iwate Higher Education Consortium
NEWS LETTER
第4号
October 2010
http://www.ihatov-u.jp/

Index

ご挨拶 1
TOPICS 2
・単位互換
・岩手医科大学特別講義配信
・ｅラーニングシステム説明会
・いわて学
・SD研修会
・FD合宿研修会
・寧波国際大学生フェスティバル
・生涯学習講座
・PBL/地域医療見学研修発表会
・学生の地域参加プロジェクト
学生インタビュー 6
今後の予定 6
いわて高等教育コンソーシアムとは？ 7
連携校紹介 8
編集後記 8

岩手医科大学
学長　小川 彰

日本は、元来天然資源に乏しく、一次産業中心の産業にのみ頼ることなく、加工産業、加工貿易など産業構造の高度化を背景に国を富ませ、世界の一流国の一角にまで発展してきました。

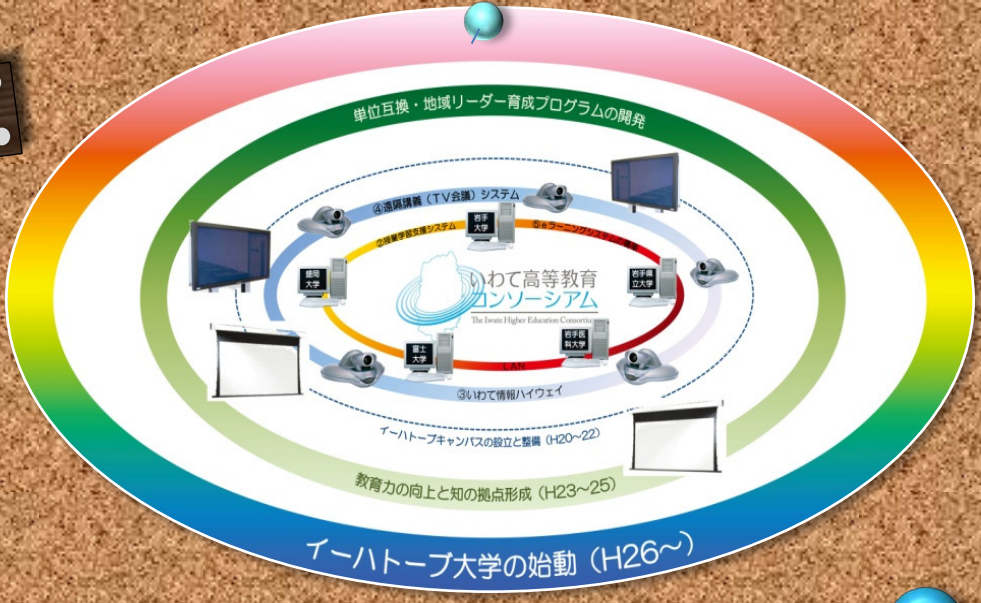
この産業構造の高度化を支えてきたのは、まさに「教育」にあり、優れた人材育成による高度な技術力の涵養が背景にあった近世の歴史は、誰もが認めるところでしょう。

一方、OECDは先日の9月初め、2007年の「教育調査」最新版の結果を公表しました。それによると、我が国は、国内総生産(GDP)に占める公的教育支出割合が、OECD平均の4.8%から大きく引き離され3.3%と最下位となっています。 大学などの高等教育費に至っては0.5%にすぎず、OECD平均1.1%の1/2以下と大きな開きが生じています。優れた人材こそが資源である日本において、将来を考えるとき、この「体たらく」は許す事のできない由々しき事態です。

人材の育成に関しては、私塾「羅須地人協会」を設立し、「科学」と「最新の農業技術」を基に、貧困な岩手の農村を「新しい農村」へ生まれ変わらせようと努力した本県の優れた先人「宮沢賢治」に見る事ができ、その模様は「それでは計算いたしませう」（春と修羅）の詩に窺えます。また、岩手の医療の貧困を憂い、明治30年、岩手医科大学の前身である私立岩手病院医学講習所を創設し、「医療人育成」に私財を投げ打った本学創始者「三田俊次郎」にもその姿を窺う事ができます。

いわて高等教育コンソーシアムは、「人材の育成」をもって「地域社会の活性化」を目標としております。これは、本県の優れた先人たちが岩手の地域社会を活性化する事に「私」を捨てて努力してきた事であり、また、日本の今後進むべき道に合致している事でもあります。「物心両面で豊かな岩手の地域社会の創出と活性化に貢献する」本コンソーシアムといわて5大学が果たすべき役割は極めて重く、改めてこの重要性を認識し努力して行くべきと考えます。

TOPICS



単位互換

連携大学間での単位互換を促進するため、いわて高等教育コンソーシアムWebサイトの単位互換ページを充実させ、約1100科目の単位互換科目のシラバスを時間割や大学ごとの分類から容易に検索できるだけでなく、履修したい科目を選択すれば特別聴講学生志願書もWeb上で作成できるように機能を追加しました同時に、「単位互換科目履修申告ガイド」を作成し、学生に配付して単位互換制度をアピールしました。

また、各大学で単位互換科目の中からお勧め科目を選び、計39科目を特色ある講義として認定し、その中から前期4科目（教養2科目、専門2科目）、後期8科目（教養2科目、専門6科目）を遠隔講義（ＴＶ会議）システムによる配信可能科目と位置づけました。

しかしながら、前期の単位互換科目の履修状況は10科目7名の履修者（遠隔講義システムによる受講は１科目のみ）に留まっており、単位互換制度の浸透に向けて、更なる広報活動の必要性を実感しているところです。

ポスター

履修申告ガイド

Webサイト

岩手医科大学特別講義配信

岩手医科大学共通教育センター主催の医・歯・薬学部合同特別講義は、もともと岩手医科大学の1学年を対象とした共通教育における講義で、医療人としての人間性、医療におけるキャリア教育を目的として、多岐にわたる医療分野のスペシャリストに講義いただいているものですが、一般社会における医療と科学への関心を高めることを目的としてコンソーシアムの連携校に同時配信しています。平成22年度特別講義は別表の日程で開催され、医科大学から連携校へ遠隔講義（ＴＶ会議）システムにて配信されました。いずれの講演も内容が分かりやすく説明され、受講者は熱心に講義を聞いていました。

月日	配信・受信	担当講師	内容
6/9	医科大 → 岩手大＆盛岡大	濱田 泰三 先生 (東北大学大学院 歯学研究科教授)	医歯薬共通に知っておくべき「高齢化社会での義歯の役割とケアの重要性
6/30	医科大 → 岩手大＆県立大	豊島 聰 先生 (医薬品医療機器総合機構理事)	医薬品医療機器総合機構の役割
7/7	医科大 → 岩手大＆県立大	鈴木 るり子 先生 (岩手看護短期大学教授)	岩手県西和賀町(旧沢内村)の生命行政 ―地域包括医療の実践に学ぶ―

特別講義受信風景

ｅラーニングシステム説明会

昨年度末に導入したｅラーニングシステム（MediaDEPO）の大学別説明会を以下の日程で開催しました。

＊岩手大学：7月02日（金）13：30～17：00

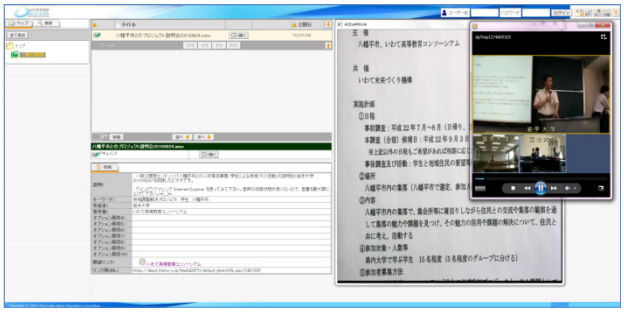
＊盛岡大学：7月08日（木）09：00～12：00

＊富士大学：7月23日（金）16：00～19：00

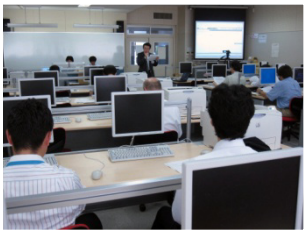
＊県立大学：7月27日（火）09：00～12：50

いずれの会場も、管理者向けの説明と一般教員向けの説明を行いました。岩手医科大学については、岩手大学での説明会に、管理者の教職員が参加しました。

このシステムは、映像コンテンツを学習者に視聴させて、その理解度をテストやアンケートで把握することができる管理機能を備えています。同時に、アイアシスタントとの連携機能により、各科目の履修者情報を自動取得できるため、教員は自身の科目履修者に限定したアクセス権を容易に付与できます。



ｅラーニングシステム



ｅラーニングシステム説明会の様子

いわて学

今年度から、5大学共通科目として前期「いわて学Ⅰ」、後期「いわて学Ⅱ」の2つの授業を開講しています。

［前期］いわて学講座

前期「いわて学Ⅰ」----------

期　間：4月17日（土）～6月19日（土）の期間中8日間、計15回

主会場：盛岡駅西口　マリオス188会議室

テーマ：「いわての地域特性を知り可能性を探る」

46名が履修し、“いわて”の地域特性を総合的に学びました。岩手県立博物館での講義や公開講座（一般参加者230名）もあり、学生からは「充実した講義内容だった」「岩手に住んでいても歴史や自然等について学ぶ機会はあまりないので貴重な講義だった」等の感想が出されました。

後期「いわて学Ⅱ」10月開講！----------

期　間：10月16日（土）～12月11日（土）の期間中８日間、計15回

主会場：盛岡駅西口　アイーナ812研修室

テーマ：「平泉から知るいわて」

平泉を核としながら、「いわて」全体の特性を知り、「いわて」の魅力やこれからの可能性を探ることをねらいとして10月から開講します。公開講座（＊下記参照）もございますのでぜひご参加ください。

「いわて学」公開講座　～平泉を語る～

＜第１回＞

日時：11月13日（土）９：15～12：30

講師：岩手大学　中村一基教授、岩手県立大学盛岡短期大学部　誉田 慶信教授

＜第２回＞

日時：11月27日（土）９：15～12：30

講師：盛岡大学　大矢 邦宣教授、岩手県教育委員会　中村 英俊文化財・世界遺産課長

※各回会場は、盛岡駅西口　アイーナ8階812です。

※会場の都合上、各回先着50名限定とさせていただきます。

お電話で事前にお申込みください。

〔お申し込み先〕岩手県立大学　教育研究支援室　019-694-2016

［前期］いわて学公開講座

ＳＤ研修会

ＳＤプロジェクト委員会では、今年度「学生支援業務に関する能力の向上に向けて」をテーマに、9月17日（金）に岩手大学を会場として５大学共同でＳＤ研修会を実施し、岩手大学7名、県立大学7名、医科大学2名、富士大学2名、盛岡大学4名の計22名が参加しました。

株式会社マネジメントサービスセンターの新妻律子氏を講師として、初めにグループワークを行い、学生支援業務における現状と課題を確認し、大学を取り巻く環境の変化と学生支援業務の位置づけをグループ別の発表を基に認識の共有化を図りました。次に、コミュニケーションの基本について、ロールプレイングにより指導を受けました。研修参加者が、職員役、学生役、観察者とそれぞれ役目を分担し、振り返りを行うことで、コミュニケーションスキルのブラッシュアップを図りました。国公私立の枠を越えての研修で学んだスキルや新たな気づきをそれぞれの大学に持ち帰り、業務に活かすこととしました。また、5大学の研修参加者間におけるネットワークを構築する良い機会となりました。今後、このネットワークが継続・発展していくことを期待しています。

ＳＤ研修会の様子

ＦＤ合宿研修会

本年度は8月26日～27日にかけて、学生と共に考える「大学教育」をテーマに、八幡平ハイツで合宿研修会を以下のスケジュールで行いました。

参加者は、5大学から教員40名、学生9名、職員8名で57名と、基調講演の木野先生の計58名となりました。

コンソーシアム主催ですべての連携校から参加者があったこと、教職員だけでなく学生も参加してＦＤ研修会を開催したことなど、これまでにない試みでしたが、多様な立場・見識のもとに議論が熱心に展開され、有意義な合宿となりました。

ワークショップの様子

ＦＤ合宿研修会参加者集合写真

＊基調講演：立命館大学共通教育推進機構教授 木野茂「学生とともに作る授業、学生とともに進めるＦＤ」

＊学生発表：岩手大、県立大、富士大、盛岡大の学生「学生が考えるよい授業とは」

＊プログラムⅠ（ワークショップ）：「学生・教員双方にとって『良い授業』とは？」

＊プログラムⅡ（ワークショップ）：「学生提案による共通教育（教養教育）科目の提案」

＊話題提供：岩手大学大学教育総合センター教育改善部門長 後藤尚人「いわて高等教育コンソーシアム『地域リーダー育成プログラム』とは」

＊プログラムⅢ（ワークショップ）：「いわて高等教育コンソーシアム『地域リーダ育成プログラム』の中に組み込める授業科目の提案」

寧波国際大学生フェスティバル

平成22年7月４日から11日まで、中華人民共和国寧波市の外事弁公室、教育局及び岩手大学の交流協定校である寧波大学を初めとする寧波地域の大学が主催する2010寧波国際大学生フェスティバルに、いわて高等教育コンソーシアムに所属する学生9名（岩手大学2名、岩手県立大学1名、盛岡大学6名）及び教員2名が参加しました。

寧波市は、浙江省に位置する人口約560万人の港湾都市で、商工業が非常に発達していますが、一方で、かつては最澄・道元・雪舟らが上陸した地点でもあり、国務院から国家歴史文化名城に指定されるなど、歴史的な重要拠点としても同時に知られています。

寧波国際大学生フェスティバルは、寧波市の国際交流を促進し中国と海外の大学生間の相互理解を深め、留学生受入れ事業を強化するため一昨年から開催されていますが、今年は教育の国際化プロジェクト事業として実施してきたヤングリーダーズ国際研修に参加経験のある寧波大学からの招待により、本コンソーシアム所属学生の参加が実現しました。

フェスティバルでは、オープニングセレモニー、寧波市内の博物館や史跡等の見学、英語による国際大学生論壇、中国人の学生宅でのホームステイ等が行われました。参加した学生は、勃興する中国の実情を目の当たりにするとともに、地元の学生のみならず、同時に参加したドイツ・フランス・イギリス・タイ等の学生とも様々交流することにより、日本の文化や現状を相対化し、グローバルなコミュニケーション能力の涵養にもつなげることが出来ました。

寧波国際大学生フェスティバルにて

生涯学習講座

大学と地域に住む人々とのかかわりを主眼とする「地域の活性化プログラム」は、2つの柱を打ち立てています。ひとつは、健康増進や若い選手の育成・スポーツ科学を支援する「スポーツユニオン」。もうひとつは、生涯にわたる知的好奇心を満たし、学習の場を提供する「生涯学習講座」です。10月から3回にわたって、いよいよこの公開講座が実施の運びとなりました。

公開講座は、大学における教育や研究成果公開の機会として、すでに各5大学がそれぞれの特色を持って開講してきたもので、このプロジェクト委員会では、これをコンソーシアムとして共同実施するプランを企画してきました。はじめての試みとなるコンソーシアム公開講座は、「豊かに生きる　～健康・スポーツ・栄養～」をテーマにして、それぞれの大学の知を結集し、地域住民の皆様へ提供すると共に、コンソーシアム事業についての理解を促すことが期待されます。以下に開講日時と講師の先生方を記載いたします。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

新規開講!!

開催日	時間	分野	講義テーマ・内容	講師
10/9（土）	13:00～13:15	開講式	あいさつ	盛岡大学　比較文化研究センター所長　照井　悦幸　教授
	13:15～14:15	基調講演	健康とは何か？	岩手大学　保健管理センター長 立身　政信　教授
	14:30～16:00	栄養系	高齢期の栄養 ―食からつくる健康長寿―	盛岡大学　栄養科学部 笹田　陽子　教授
11/13（土）	13:00～14:30	看護系	健康の秘訣	岩手県立大学　看護学部 菊池　和子　教授
	14:45～16:15	スポーツ・社会学	スポーツと生きがい	岩手大学　人文社会科学部 浅沼　道成　教授
12/11（土）	13:00～14:30	心理系	仕事のなかの学び	富士大学　経済学部 堀　圭介　講師
	14:45～16:15	医学系・身体	糖尿病と共に生きる―早期発見・早期治療で健康長寿―	岩手医科大学　医学部 高橋　和眞　准教授
	16:15～16:30	閉講式	あいさつ	岩手医科大学 共通教育センター 作山　正美　教授

（*詳細についてはコンソーシアムＨＰ又は、コンソーシアム事務局までお問い合わせください。）

ＰＢＬ/地域医療見学研修発表会

地域医療・福祉の向上を目指す研究の推進事業の一環として7月23日（金）に地域医療見学研修発表会を開催し、岩手医科大学医学部第1学年及び連携大学の教職員が参加しました。この研修は、医学部1年生が複数の小グループに分かれ、自治体や医師会・病院を訪問し、現場に携わる一人ひとりに調査・取材を行うものです。その後、調査・取材結果を基に課題の解決に向け既存データと共に分析し、自らがどのように考え現状を改善できるか、グループ毎に発表をしました。発表では、地方と都市の医療ニーズが全く異なる実態を見、自治体が主体となって地域の医療を守り育てていくことが重要であることなどが挙げられ、“医療”と“医療”を取り巻く諸課題について考察を深めました。これから医療に従事する者としてどうあるべきか、数ある課題に対し問題意識を持ちながら学ぶことの大切さを深く心に刻んでいた様子が伺われました。また、医師不足が深刻化している時代に立ち向かうべく、医師としての知力や技術力はもちろん、体力もしっかりつけ過酷な医療の現場にふさわしい医師となれるよう決意を新たにした学生もいました。なお、発表会前日の7月22日（木）にはＰＢＬ授業公開（発表のまとめやスライド作成）が行われ他大学教職員が見学に訪れました。

地域医療見学研修発表会の様子

学生の地域参加プロジェクト

八幡平市との共同プロジェクトとして「学生による地域づくり活動 in 八幡平市」を、いわて未来づくり機構「地域力を支える人材育成」作業部会の仲介で立案し、岩手大学５名、県立大学５名、盛岡大学4名の計14名の学生が参加して、岩手県八幡平市兄川地区の公民館を拠点に、8月20日（金）の下見を経て、9月3日（金）～ 5日（日）に以下のスケジュールで合宿を行いました

＊9月3日（金）：開会式 ～ 昼食 ～ 現地調査 ～ 地域住民主催の歓迎会

＊9月4日（土）：現地調査 ～ 昼食（地域住民と郷土料理）～ 現地調査 ～ 報告会準備

＊9月5日（日）：報告会（調査結果と地域活性化への提案）～ 閉会式

八幡平市職員の方々並びに兄川地区の住民の方々から心温まる対応をいただいたおかげで、短い時間ながらも、地域の歴史や現状を知り、その認識に基づいて学生達は調査結果と地域活性化に向けた提案をまとめることができました。また、合宿の様子は、9月6日（月）岩手日報に紹介されました。

なお、学生が行った提案のうち、本年度中に実現可能なものについては、これから実行する予定です。

兄川地区公民館にて

報告会の様子

直撃！学生インタビュー

2010寧波国際大学生フェスティバル
（教育の国際化・東アジアとの連携強化事業）

Q1. 事業に参加しての感想は？

寧波国際大学生フェスティバルでは、世界中の様々な国の大学生の意見を聞いたり、交流したりでき、密度の濃い充実した10日間を送ることができました。異文化や他国の学生の勉強熱心な姿勢を目の当たりにし、私自身の今後の大学での勉強や将来の夢へのモチベーションが高まりました。同じアジアでも日本と中国では、人々の考え方から習慣まで全く異なるということを肌で感じてることができました。また、英語を母語としないアジアやヨーロッパなどの学生と、英語を使ってコミュニケーションを図るというのは、とても新鮮で貴重な体験でした。相手とコミュニケーションをとることができ嬉しかったのと同時に、もっと言語力があればより一層意見を交わせるのに、と悔しさも感じました。今回の貴重な経験を忘れることなく、今後の大学生活に目標を持って充実したものとしていきたいです。

Q2.コンソーシアムに今後期待することは？

国内外を問わず、学生交流の場を提供していただきたいです。自分の専門とは違う分野を専門とする学生の意見を聞いたり、反対に自分の意見を主張したりするのは、私たち学生にとって新鮮で、コミュニケーション能力をつけるいい機会だと思います。普段の大学の講義とはまた違った雰囲気で、自由に意見を交わして交流できるような学生交流を期待しています。

千葉 佳恵さん（岩手大学人文社会科学部国際文化課程3年）

学生による地域づくり活動 in 八幡平市
（学生の地域参加プロジェクトの実施事業）

Q：事業に参加した感想等をお聞かせ下さい。

合宿（9月3日～5日）では、兄川地区の方々との交流の中で、資料や統計には表れにくい地域が抱える課題を見聞できたことは貴重な経験でしたし、地域課題の多様さを実感しました。ある問題に対して、自分は何ができるだろうと問いかけ、考え抜くことの大切さを学びました。看板・掲示板づくり（9月25日）にも参加してみて、大学での学びを実践に移す場あれば、学生の学びも豊になると感じました。

晴山 美香子さん（岩手大学人文社会科学部人間科学課程3年）

合宿で提案した地域振興策について、責任感を感じながら看板・掲示板づくりに取り組みました。合宿では蜂に刺されたこともあって、注意を促す看板の必要性を実感しました。ハチマンタイラーと一緒に都会の子供が森林体験を行うツアー、雪よせボランティア・ミニ雪祭りなどの企画についても、県立大のボランティアセンターや他大学の学生達と力を合わせて地域への手助けができればいいと思います。

齋藤 大典さん（岩手県立大学総合政策学部総合政策学科1年）

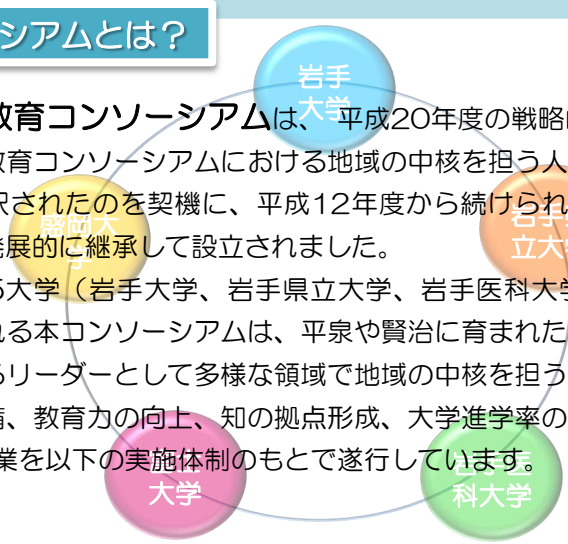
以前に、ある地域の活性化を考える機会があったのですが、今回、実際に現地にきて合宿し、いろんな方々にインタビューしてみると、ものの見方や考え方が広がり、今まで出てこなかったアイデアも湧いてきました。看板・掲示板づくりを踏まえ、今後は、智恵の滝（八幡平市兄川）にあやかった受験生合宿などの実現に向けて、自分たちにできることを実行していきたいと思います。

髙橋 匠さん（盛岡大学文学部社会文化学科1年）

今後の予定

10月 9日（土）	第1回生涯学習講座　2010 ～豊かに生きる～
10月16日（土）	共通キャンパスを活用した公開事業［宮古高校出張講義］
11月13日（土）	いわて学　第1回公開講座［後期］～平泉を語る～
〃	第2回生涯学習講座　2010 ～豊かに生きる～
11月27日（土）	いわて学　第2回公開講座［後期］～平泉を語る～
12月11日（土）	第3回生涯学習講座　2010 ～豊かに生きる～
12月27日（月）	拡大版ウィンターセッション
1月29日（土）～30日（日）	平泉文化フォーラム
2月19日（土）	平成22年度いわて高等教育コンソーシアムシンポジウム

いわて高等教育コンソーシアムとは？



いわて高等教育コンソーシアムは、平成20年度の戦略的大学連携支援事業に「いわて高等教育コンソーシアムにおける地域の中核を担う人材育成と知の拠点形成の推進」が採択されたのを契機に、平成12年度から続けられていた「いわて5大学学長会議」を発展的に継承して設立されました。

岩手県内の5大学（岩手大学、岩手県立大学、岩手医科大学、富士大学、盛岡大学）で構成される本コンソーシアムは、平泉や賢治に育まれた共生の思想を尊び地域全体を思いやるリーダーとして多様な領域で地域の中核を担う人材育成を柱に、教育環境の基盤整備、教育力の向上、知の拠点形成、大学進学率の向上、地域の活性化に関わる20の事業を以下の実施体制のもとで遂行しています。

いわて高等教育コンソーシアム実施体制

理事会

運営委員会

教育研究環境基盤整備等プロジェクト委員会

- 共通キャンパスの整備
- Webを活用した授業学習支援システムの導入
- いわて情報ハイウェイを活用したネットワーク構築
- 遠隔講義（TV会議）システムの構築
- ｅラーニングシステムの構築
- いわて情報ハイウェイを活用した講義の配信
- 共通キャンパスを活用した公開事業の実施
- 拡大版ウィンターセッションの実施

人材育成・地域文化拠点形成プロジェクト委員会

- 地域人材育成（岩手学）講座の開設
- 特色ある講義の充実
- 地域文化（平泉、賢治、言語など）研究の推進

SDプロジェクト委員会

- SD研修の共同実施

FDプロジェクト委員会

- FD研修の共同実施

教育の国際化プロジェクト委員会

- 留学生教育の充実
- 教育の国際化
- 東アジアとの連携強化

地域の活性化プロジェクト委員会

- スポーツユニオン、シニアカレッジ等の実施
- 生涯学習の場の提供

地域課題解決プロジェクト委員会

- 学生の地域参加プロジェクトの実施
- 地域医療・福祉の向上を目指す研究の推進

連携校紹介

岩手大学

国立大学法人岩手大学は、昭和24年5月に設置され、人文社会科学部、教育学部、工学部及び農学部の4学部で構成されております。

岩手大学は、真理を探究する教育研究の場として、学術文化を創造しつつ、幅広い教養と深い専門性を備えた人材を育成することを目指すとともに、地域社会に開かれた大学として、その教育研究の成果をもとに地域社会の文化の向上と国際社会の発展に貢献することを理念に掲げております。

実直で粘り強い岩手大学の校風は岩手の風土に育まれたもので、当校の先輩である宮澤賢治の精神につながるものです。岩手大学の学生は、彼の残したメッセージを感じ取り、自分の可能性を高めるべく様々なことに好奇心を持って取り組んでおります。

岩手大学では、教職員と学生が一体となり、積極的に地球温暖化対策に取り組んでおります。その結果、第1回エコ大学ランキング(2009年)では第1位（国公私立大学総合）に評価されました。

正門

学生と意見交換する藤井 克己学長

農業教育資料館（国重要文化財）と
ボランの広場のライトアップ

編集後記

9月11日、12日に大阪で開催されました第7回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムに本コンソーシアムも出展してまいりました。全国に92（H21現在）のコンソーシアム団体が有る中で、本コンソーシアムの主な特徴として、連携機関数が比較的少ないこと、故に取組事業数が多いことが挙げられます。フォーラムに参加し、これらコンソーシアムがそれぞれの“らしさ”を最大限に活かした運営が求められていることを感じると共に、これからの日本を支える人材育成に期待されるものは大きいと感じました。本コンソーシアム事務局として、岩手そして日本、更には世界を支える人材の育成を目指し、地域と共に支える土台となるべく尽力して参りたいと改めて思った次第です。今後も本コンソーシアムの活動を応援いただけますようお願い申し上げます。

構成大学

岩手大学 http://www.iwate-u.ac.jp/
岩手県立大学 http://www.iwate-pu.ac.jp/
岩手医科大学 http://www.iwate-med.ac.jp/
富士大学 http://www.fuji-u.ac.jp/
盛岡大学 http://www.morioka-u.ac.jp/

発行連絡先

いわて高等教育コンソーシアム事務局
（岩手大学研究交流部研究協力課内）
〒020-8550　岩手県盛岡市上田三丁目18-8
TEL：019-621-6853　FAX：019-621-6995
E-mail：ihatov5@iwate-u.ac.jp

平成２２年10月３０日発行